



■ H23(2011)年2月18日

「土木学会デザイン賞2010」において二ヶ領宿河原堰が最優秀賞を受賞しました

このたび京浜河川事務所において平成10年度に改築が完成した二ヶ領宿河原堰が、「土木学会デザイン賞2010」において最優秀賞を受賞しました。

土木学会デザイン賞（正式名称：土木学会景観・デザイン委員会デザイン賞）とは、優れた風景を生み出した作品を選定し、その実現に貢献した関係者を顕彰し、広く一般に公開することによって、土木デザインの重要性を社会に問うとともに、才能ある設計者やデザイナーに光を当て、彼らの努力が社会の広汎な支持を得ることに寄与する目的で、2001年に創設された賞で、今年が10年目になります。

主催	社団法人 土木学会 景観・デザイン委員会
結果公表	平成22年11月15日（月）
授賞式	平成23年2月5日（土） 13時00分～ 土木学会講堂



二ヶ領宿河原堰



表彰状



会場風景



受賞者の記念撮影

【開催報告は文末をご覧ください】

「土木学会デザイン賞 2010」において二ヶ領宿河原堰が最優秀賞を受賞

京浜河川事務所において平成 10 年度に改築が完成した二ヶ領宿河原堰が、「土木学会デザイン賞 2010」において最優秀賞を受賞しました。

土木学会デザイン賞(正式名称:土木学会景観・デザイン委員会デザイン賞)は、優れた風景を生み出した作品を選定し、その実現に貢献した関係者を顕彰し、広く一般に公開することによって、土木デザインの重要性を社会に問うとともに、才能ある設計者やデザイナーに光を当て、彼らの努力が社会の広汎な支持を得ることに寄与する目的で、2001年に創設された賞で、今年で10年目になります。

<土木学会デザイン賞 2010>

主 催 : 社団法人 土木学会 景観・デザイン委員会

結果公表 : 平成 22 年 11 月 15 日

授 賞 式 : 平成 23 年 2 月 5 日 13:00～ 土木学会講堂

◆ 総 評 ◆

「最優秀賞の多摩川の宿河原堰は油圧式転倒ゲートを用いることにより、視線を遮ることなく、河川の広々とした空間を活かしつつ、構造物があることによりかえって魅力的な水辺の空間が演出されている。上屋がなく水平面が強調されたことにより、落水の表情を際立たせることに成功している。構造形式の工夫が景観の向上に大きく寄与しており、土木構造物の景観設計の王道との評価を得た。今後の堰のデザインの方向性を示す構造物であろう。」

土木学会デザイン賞HP 島谷デザイン賞選考小委員会委員長の総評より

※ 詳細な講評は、[「土木学会デザイン賞2010」HP](#)をご参照下さい。

◆ 受賞内容 ◆

宿河原堰の改築にあたっては、流下断面を確保し治水上の安全を高めるために、旧堰の固定堰を可動堰に変えました。堰の構造は旧堰のイメージを確保するようなデザインとするため、水面から構造物が突出しない起伏式ゲートを採用しました。また、堰柱は自然石や特殊型枠を使用して石張り風に仕上げ、人工構造物のイメージの軽減を図りました。

これらの構造形式の工夫が景観の向上に大きく寄与しており、今後の堰のデザインの方向性を示しているという高い評価を得ました。

1, 二ヶ領宿河原堰の概要

所在地 : 右岸/川崎市多摩区宿河原
左岸/東京都狛江市猪方

用途 : 環境用水の通水(準用河川二ヶ領宿河原線)

設計期間 : 1994年 6月～1995年 3月

施工期間 : 1995年 10月～1999年 3月

事業費 : 約 60 億円

事業者 : 国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所



2, 宿河原堰改築事業の概要

多摩川の22.4km地点に位置する当初の二ヶ領宿河原堰は、昭和24年にコンクリート堰に改築され、そのほとんどが固定部で堰上流の土砂堆積もあり、洪水時に計画の流量を流す断面が不足していました。また、完成後50年近くが経過しており、老朽化も進んでいました。さらに、昭和49年9月には台風16号により左岸堤防が決壊し、民家19棟が流失・崩壊する大被害が発生しました。

このようなことから、治水安全度の向上を図る必要性から、平成6年度より川崎市と共同で改築事業に着手しました。



昭和49年9月洪水時の二ヶ領宿河原堰

3, 宿河原堰改築のデザインコンセプト

旧堰周辺は、多摩川の流れの中でも自然の豊かさと人々が心地よく共存している風景が最も感じられる一つであり、以下のような特色があります。

- ・ 上空への広がりのある空間
- ・ 川幅いっぱいの豊かな水の広がり
- ・ 堰下流側の小さな段差による立体的な川の流れ
- ・ 落ち着いた懐かしさを感じさせる風景

新堰のデザインにあたっては、旧堰が創出している雰囲気や壊すことがないように、砂礫河原の水の流れや、川の持っている豊かで素朴な表情と、ゆるぎない安定感を表現することを考えました。



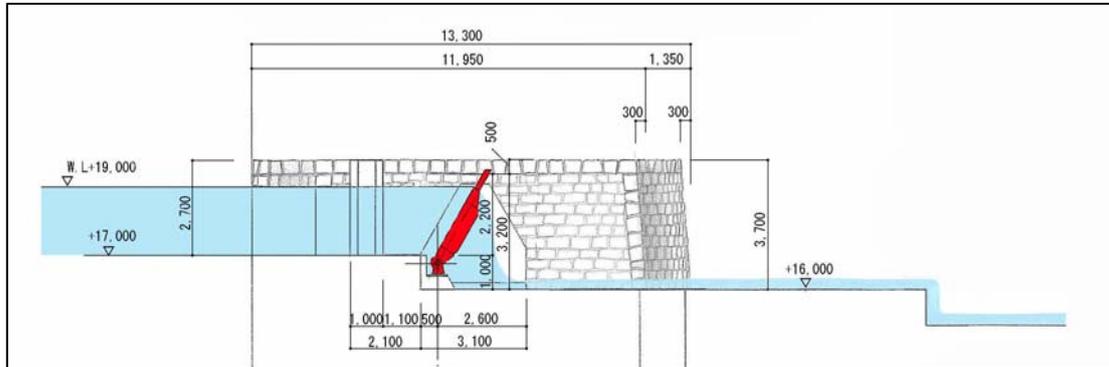
旧宿河原堰



新宿河原堰

4, 起伏式ゲートの採用

旧堰上流の湛水域の確保や、原風景の特色である上空への広がり为确保するには、門柱や上屋が上空に突出する引き上げ式ゲートではなく、起伏式ゲートとすることが求められました。しかしながら、起伏式ゲートは、洪水時にゲートが倒伏しない可能性が懸念されたため、全国の故障事例を調査しその対策を徹底的に行う事で、起伏式ゲートの採用を可能としました。



起伏式ゲート 断面図

5, ニヶ領宿河原堰の全景写真



宿河原堰 川崎側から



宿河原堰 川崎側下流から

